

2003年6月13日

各 位

セフェム系抗生物質・セフトリアキソンナトリウム製剤
(販売名：ロセフィン[®]点滴静注用1gバッグ)
保険薬価基準収載および新発売のお知らせ

中外製薬株式会社〔本社：東京都中央区／社長：永山 治〕(以下、中外製薬)は、日本ロシュ株式会社(現・中外製薬)が申請し、2003年3月に中外製薬として承認を得たセフェム系抗生物質・セフトリアキソンナトリウムのバッグ製剤(販売名：ロセフィン[®]点滴静注用1gバッグ)が、2003年6月13日に保険薬価基準に収載されたことを受け、同日付で発売することをお知らせいたします。

なお、薬価は『ロセフィン[®]点滴静注用1gバッグ』として1,746円です。

細菌感染症の治療では、抗生物質の濫用により問題となったメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の発生以降、その使用においてもエビデンスに基づいた「適正使用」が推進されるようになりました。このような状況にあって『ロセフィン[®]』は、ペニシリン耐性肺炎球菌、耐性インフルエンザ菌などに対する良好な抗菌力や、優れた組織移行性などが評価され、欧米はもとより日本国内においても、感染症治療のガイドラインで「市中肺炎*」、「急性中耳炎」、「髄膜炎」、「腎盂腎炎」などの疾患治療に推奨されています。また注射用セフェム系抗生物質製剤の中で、唯一、1日1回の投与が可能な薬剤として、その簡便性、経済性が海外でも高く評価されています。

一方、注射用抗生物質のバッグ製剤は、簡便性、無菌性、使用後の易廃棄性などの観点から、近年、医療現場での使用ニーズは高まりを見せています。そこで『ロセフィン[®]』についても、1日1回投与という元来の簡便性に加え、剤形選択の幅を広げることで顧客満足に貢献するとの観点から、バッグ製剤の開発を進めてきました。

中外製薬は、感染症領域を重点領域の一つと位置付けています。今回、国内外を問わず多くの感染症治療のガイドラインで推奨されているというエビデンスや、1日1回の投与が可能という特徴を有する『ロセフィン[®]』に、新たにバッグ製剤が加わることにより、細菌感染症の治療へ一層の貢献ができるものと考えています。

以上

* 市中肺炎：肺炎球菌やインフルエンザ菌などが主な原因菌となる肺炎で、入院中に発症する肺炎以外のものを指します。呼吸器感染症の領域では一般的な用語で、海外では community-acquired pneumonia と称されます。